

痕跡データから明らかになった今次津波の特徴

■沿岸方向分布(2ページ参照)

- ・岩手県から福島県のほぼ全域にかけて10mを越える浸水高が記録されている
- ・岩手県内のリアス式海岸部では、遡上高が30mを越える地区もある

■岸沖方向分布

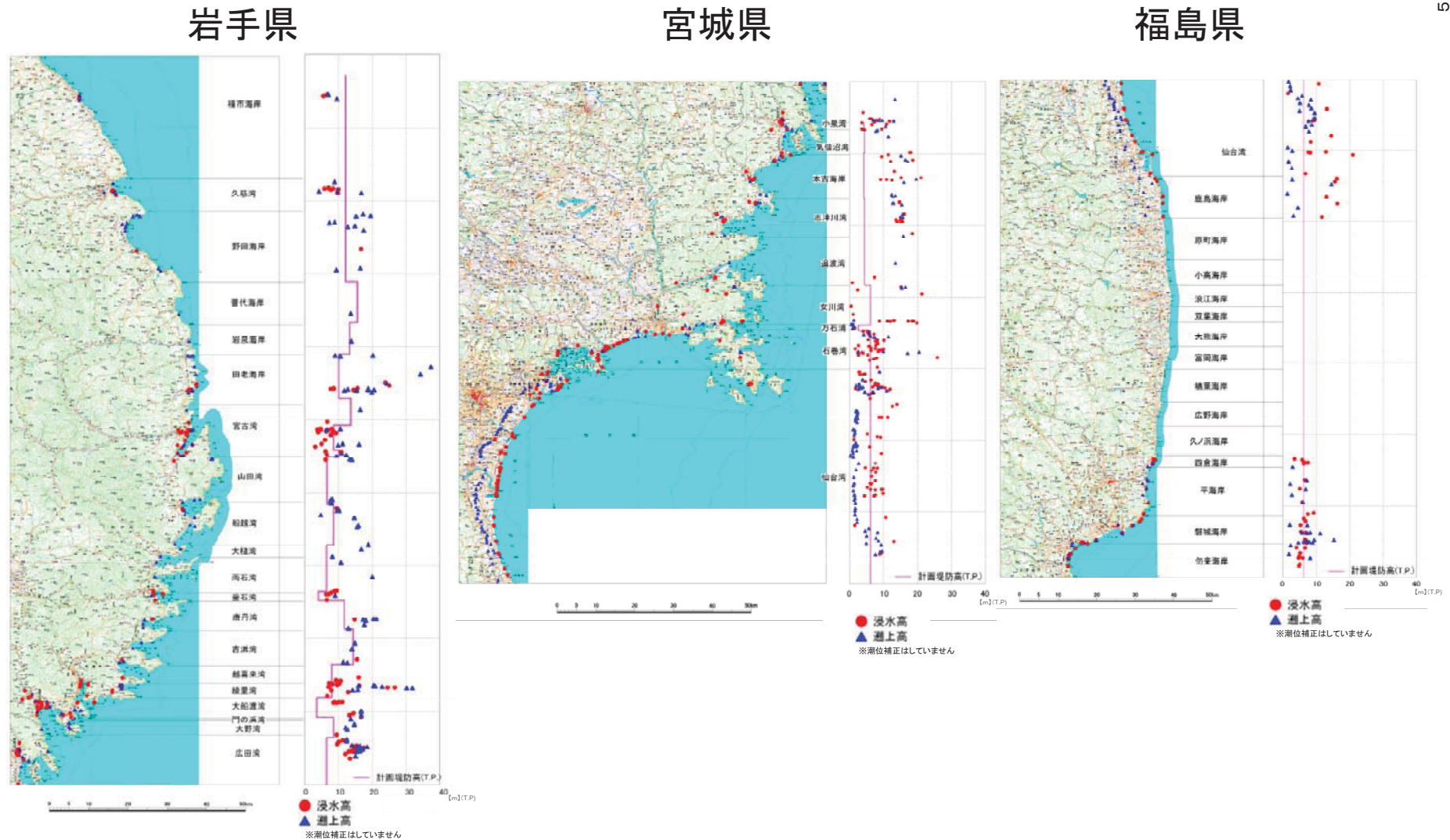
①仙台平野などの平野部

内陸に向かって、浸水高の低減が見られる(3~4ページ参照)

②田老、陸前高田などのリアス式海岸部

海岸付近と内陸部との間で、浸水高の差はあまり見られず、場所によっては内陸部の方が高い場合もある(5~6ページ参照)

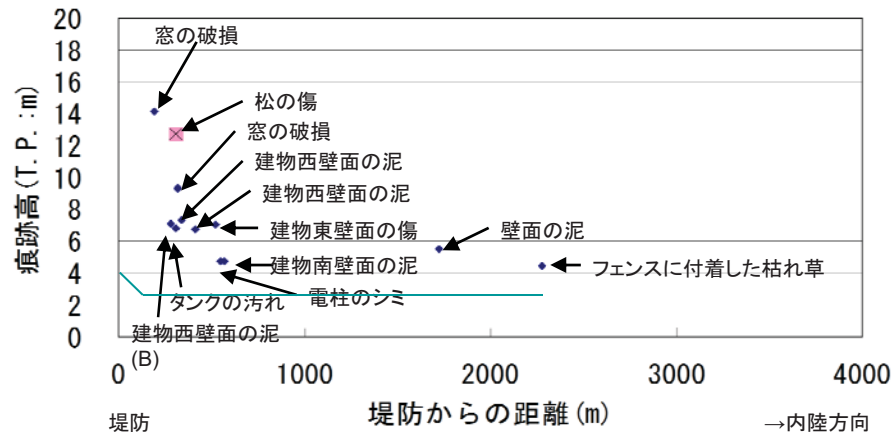
痕跡高・堤防高の沿岸分布の大局的傾向(イメージ)



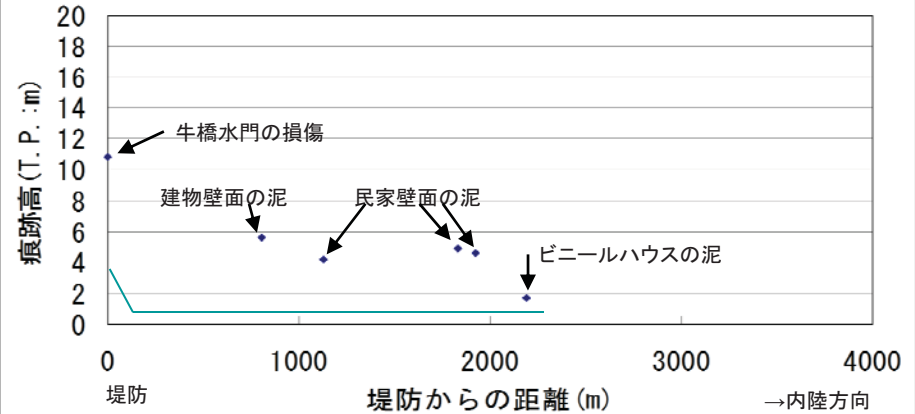
※「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」による速報値(4月18日現在)、東北地整、岩手県(一部)の速報値を、内陸方向への距離を問わずにプロットしている

痕跡高の岸沖方向分布(平野部)

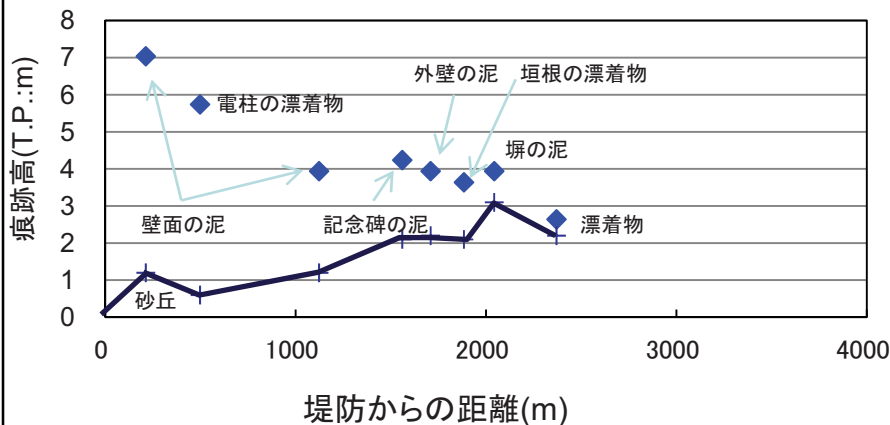
測線1



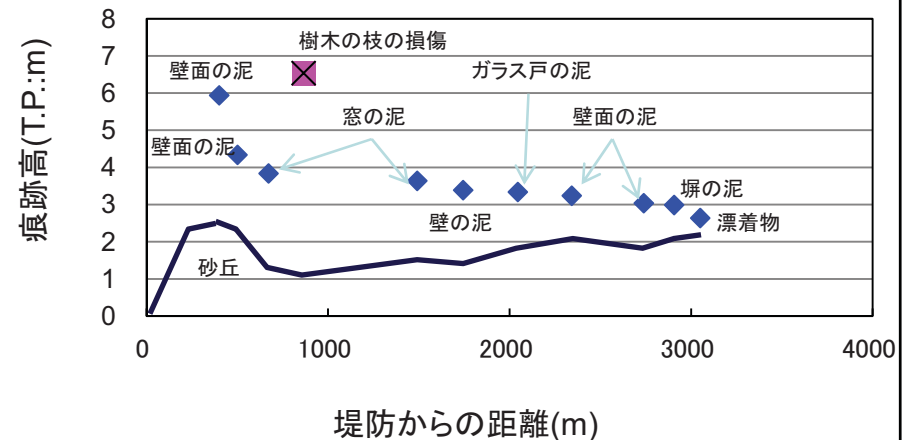
測線2



測線3



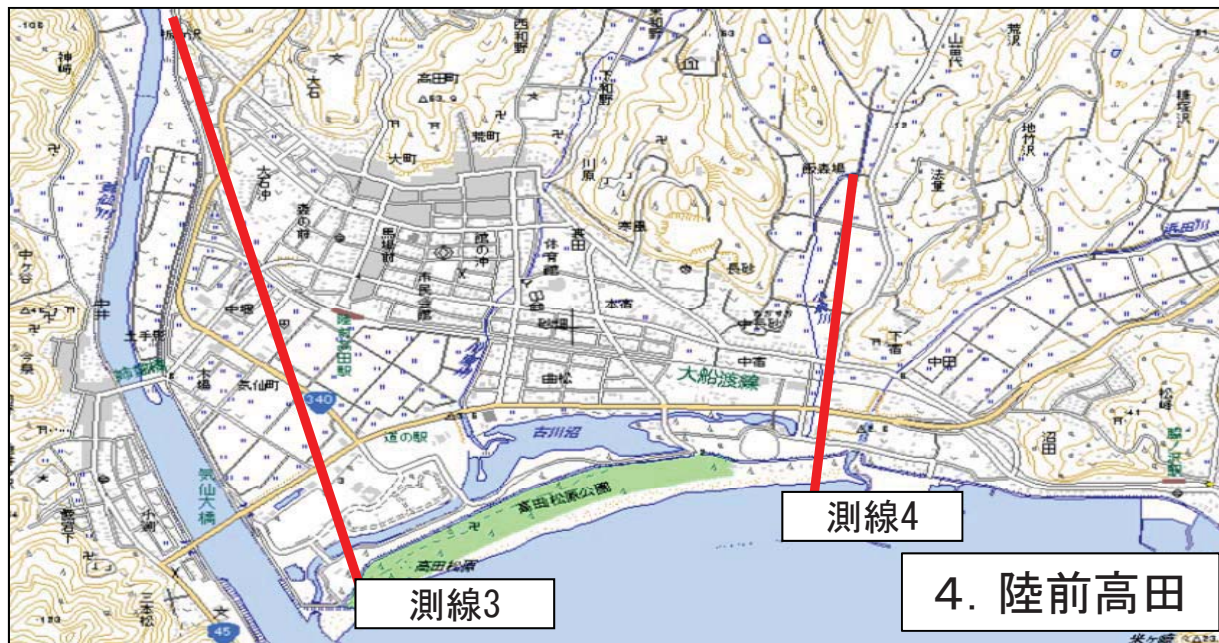
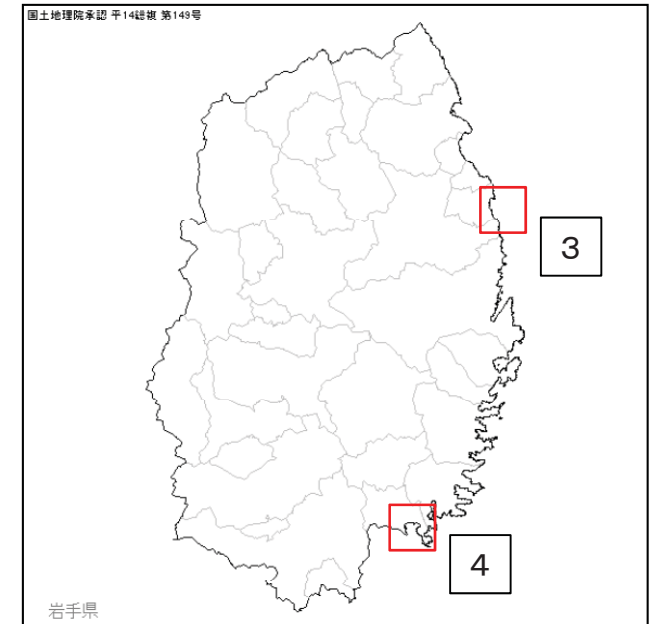
測線4



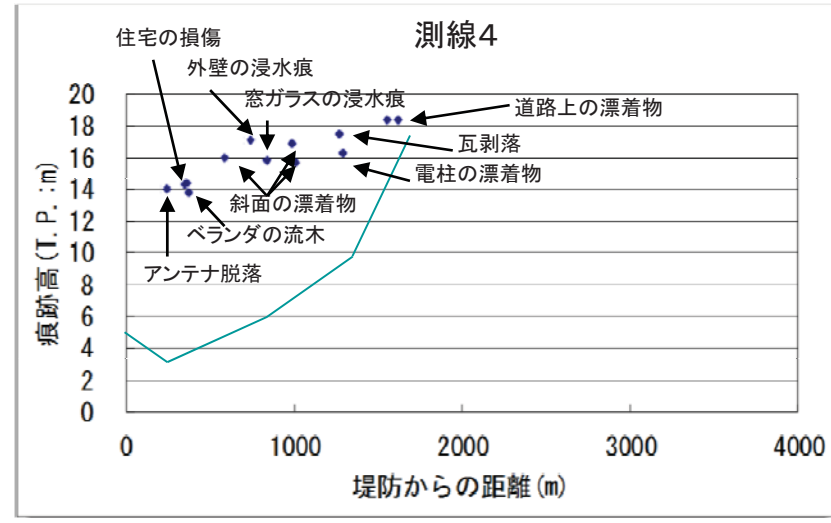
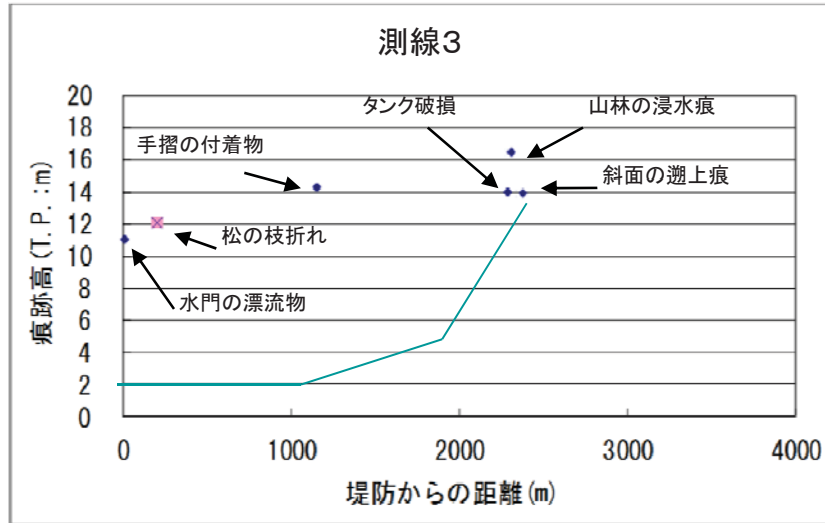
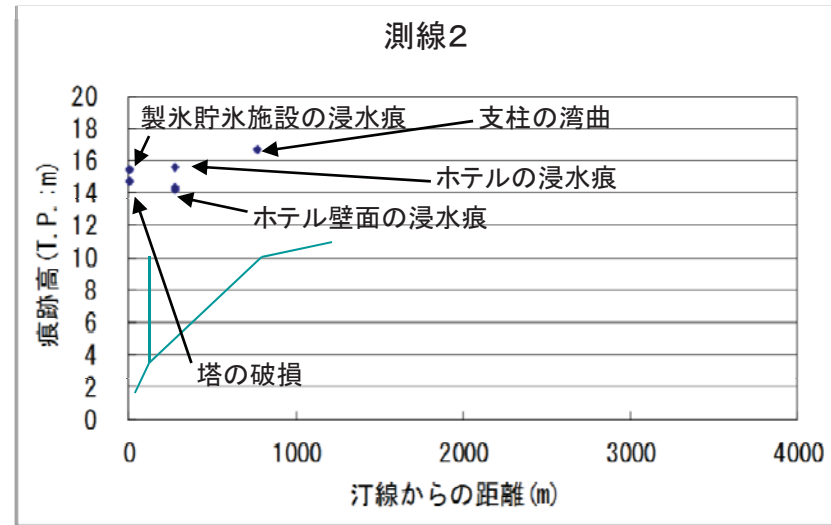
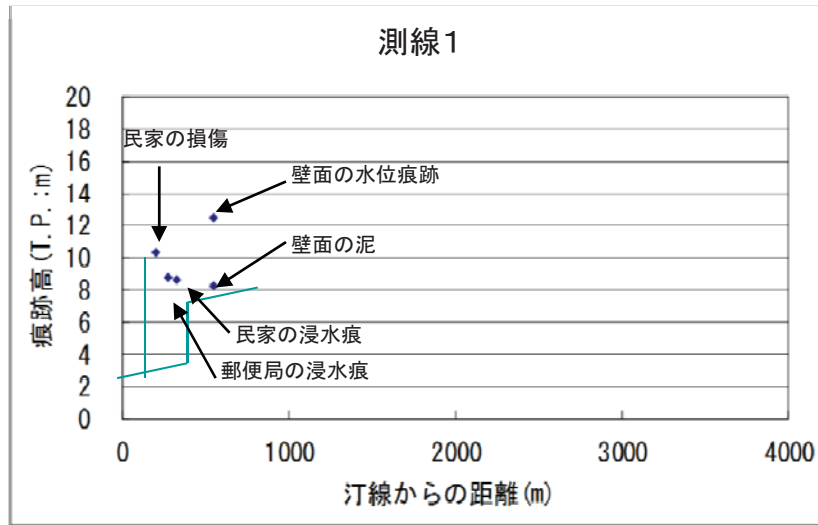
※気象庁資料によると、仙台港における津波の高さは7.2m
 ※東北地方整備局、国総研の速報値をプロット

- ◆ 構造物(建物、電柱)上の痕跡
- ✕ 樹木での痕跡
- 地盤高(概略)

岩手県内での痕跡高調査(リアス式海岸部)



痕跡高の岸沖方向分布(リアス式海岸部)



※「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」による速報値(4月18日現在)、東北地方整備局、国総研の速報値をプロット

- ◆ 構造物(建物、電柱)上の痕跡
- ✕ 樹木での痕跡
- 地盤高(概略)